
第 70 回数理社会学会大会（JAMS70）大会案内

日時：2021 年 3 月 8 日（月）～3 月 9 日（火）

会場：オンライン（Zoom）

大会委員長：竹ノ下弘久（慶應義塾大学）

● 第 70 回大会開催校より

開催にあたって

竹ノ下弘久（慶應義塾大学）

このたび、数理社会学会第 70 回大会を、慶應義塾大学にて開催させていただきます。本来でしたら、第 69 回大会を 2020 年 3 月に慶應義塾大学三田キャンパスで開催させていただく予定でした。しかし、2020 年 1 月からの新型コロナウィルスの感染拡大により、やむなく慶應義塾大学での第 69 回大会は中止とせざるを得ませんでした。正直なところ、中止が決まった当初は大会運営の仕事がなくなり少しホッとしたところもあります。第 61 回大会を上智大学在職中に担当させていただいたこともあり、これで自分が大会委員長をやることもないだろうと思っていました。

しかし、思いがけないことは起こるものです。石田淳研究活動委員会委員長より、ぜひ中止となつた 2020 年大会の「リベンジ」として、2021 年 3 月に慶應義塾大学にて大会開催をお願いしたいというご依頼がありました。一瞬、引き受けるか躊躇しましたが、喜んでお引き受けすることにいたしました。当初は、対面での開催の可能性も考慮に入れていきましたが、COVID-19 pandemic と様々な社会的制限は今なお続いており、on campus で大会を行うことは叶いませんでした。学会の合間に、慶應仲通りの多くの飲食店やラーメン二郎の味を堪能することもできません（コロナ禍でも、ラーメン二郎には変わらず行列ができます）。今後、対面での学会大会が可能となる日が来るこことを祈念しています。

とはいへ、オンラインでの大会運営には様々なメリットもございます。空間的な移動を必要とせず、自宅や研究室から隨時学会大会に参加することができ、参加のために必要な経済的、時間的コストを小さくすることができます。前回大会は、数理社会学会として初のオンライン大会となりましたが、これまでと同様の数理社会学会らしい自由闊達な議論や研究交流の場となったのではないかと思います。

今回大会では、開催校特別企画として、「コロナ禍の中の仕事と家族」というテーマでシンポジウムを行います。私自身は、今回のコロナウィルスの感染拡大とその社会的影響について考えるとき、静岡大学在職中に経験した 2008 年から 2009 年にかけての経済危機と製造業で起きた派遣切りのことを思い出します。静岡県浜松市のハローワークに何度かインタビューのために訪問しましたが、駐車場待ちの車が長い列を作っていた光景が今でも目に浮かびます。コロナ禍の社会

への影響について論じるには時期尚早という思いもありますが、私たちも含めた多くの人たちが経験する出来事について、考えるための材料が提供できればと考えています。

● 第 70 回数理社会学会のご案内

第 70 回数理社会学会大会は下記の要領で開催されます（プログラムをウェップ上で公開中です）。今大会では特別企画として、ワンステップアップ・セミナー「ウェブ調査データ収集の方法と実践（講師：三浦麻子先生）」、大会校企画シンポジウム「コロナ禍のなかの仕事と家族」が開催されます。活発で刺激的な研究交流の場となるよう、みなさまのご参加をお待ちしています。

（研究理事：石田淳）

1 期日：2021 年 3 月 8 日（月）～3 月 9 日（火）

2 会場：オンライン（Zoom）

3 参加費：

一般（会員）無料 学生・院生（会員）無料

一般（非会員）5,000 円 学生・院生（非会員）2,000 円

4 懇親会：オンライン上の懇親会を念頭に置いていため、会費はかかりません。

5 参加登録

- 以下の URL に参加登録をお願いします。
- 非会員の方は事前登録の上参加費を納めることで学会大会に参加していただけます。非会員（非登壇者）の参加登録の締め切りは 2021 年 2 月 23 日（火・祝） です。参加登録をされた方に振り込み案内メールをお送りしますので、所定のゆうちょ銀行口座に振り込みをお願いします。振り込みの締め切りは 2021 年 3 月 2 日（火） です。

【非会員の非登壇者用】参加登録申し込みフォーム：<https://forms.gle/JgLVzabFRMnaFw126>

- 会員の方も参加人数の事前把握のために、参加予定の方は事前登録をお願いします。参加登録の締め切りは 2021 年 3 月 2 日（火） です。

【会員用】参加登録申し込みフォーム：<https://forms.gle/otwNM36vgpiFYAPR8>

6 参加方法

- 参加登録済みの方々に対して、事前に Zoom の招待メールを登録メールアドレスにお送りします。
- 会員向けには、会員マーリングリストでも Zoom の招待情報をお送りします。
- 参加方法の詳細と当日の注意点についても招待メールと同時にお送りします。

7 問い合わせ先

研究事務局 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155

関西学院大学社会学部 石田 淳

E-mail: jams.research[at]gmail.com

大会開催校 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学法学部 竹ノ下弘久

E-mail: jams.meeting70[at]gmail.com (一般的な問い合わせ)

● 第 70 回数理社会学会大会時のワンステップアップ・セミナーのご案内

第 70 回オンライン大会前日に第 20 回ワンステップアップ・セミナーを、下記の要領で開催します。三浦麻子先生を講師とし、「ウェブ調査データ収集の方法と実践」についてご講義いただきます。コロナ禍の続くなか、広く社会科学にたずさわる研究者にとって、ウェブ調査のもつメリットが高まっています。この機会にふるってご参加ください。

1. 題目：ウェブ調査データ収集の方法と実践
2. 講師：三浦麻子（大阪大学）
3. 日時：2021 年 3 月 7 日（日）15:00～17:00
4. 場所：オンライン（Zoom 開催）
5. 内容：

本セミナーでは、調査によるデータ収集の実施形態として、長らく主流だった紙筆版に取って代わって急速に普及しているウェブ調査について解説する。

ウェブ調査では、当初からデータを電子化した形で入手でき、画像や音声など文字以外を利用した刺激を呈示したり、質問内容をダイナミックに変化させたりする仕掛けを施すのが容易である。こうした点は従来の紙筆版調査と比べて大きなメリットだし、インターネットが十分に普及した現在ではサンプリングバイアスの懸念も小さくなり、協力者にとっても回答のコストは低いと考えられる。一方、参加コストが低く、誰でも手軽に参加できるというのは、言い換えれば「参加環境を制約できない」ということである。回答環境が参加者任せとなると、回答に際する態度を調査者がコントロールすることは不可能である。

多くの利点をもつウェブ調査だが、研究者はそれに安住するのではなく、その先を常に考える必要がある。本セミナーでは、講師が手がけてきた諸研究で得られた知見を紹介することを通して、参加者ご自身が、ウェブ調査という手法がどのような研究目的とフィットするものかを考えるきっかけとなればと考えている。

なお、社会調査と心理調査では、大きな意味で何を知りたいかが異なることから、調査票作成や対象者選定など計画のどんなところへの「こだわり」が強いかも異なる。講師は心理学者であり、社会調査の経験は豊かとはいえない。そのため、本セミナーでははじめに、こうした差異があまり影響しないだろう方法のごく基礎的部分について、初心者を対象に解説する。その後、具

体的な実践に関わるアドバイスについて、参加者からの相談内容に基づくカウンセリングによって行う。事前応募を優先するが、時間の許す限り当日飛び入りの相談も歓迎する。

6. 目標：

- ・ウェブ調査の利点と問題点を知る
- ・どのような研究意図とフィットする研究手法であるかを考える

7. 扱うトピック：

- (1) ウェブ調査の利点
- (2) ウェブ調査の問題点
- (3) 「一般市民」サンプルの調達先ごとの特徴
- (4) 個別カウンセリング

8. テキスト：特になし（資料配付）

参考資料：(以下に目を通すことを推奨します)

- (1) 三浦麻子, 2020, 「心理学研究法としてのウェブ調査」『基礎心理学研究』39(1): 123-131.
(<https://doi.org/10.14947/psychono.39.4>)
- (2) 三浦麻子, 2019, 「輿論科学協会創立 74 周年記念講演 ウェブ調査における回答者の努力の最小限化：Satisfice 行動がデータの質に及ぼす影響」『市場調査』304: 4-29.
(<https://ci.nii.ac.jp/naid/40022156211/>) ※PDF 提供なし

9. 参加費：無料

10. 定員：なし（Zoom の定員は 500 名まで）

11. 参加資格：会員・非会員を問いません。

12. 申し込み：以下の URL に、ワンステップアップ・セミナーの参加登録をお願いします。参加登録の締め切りは、2021 年 2 月 28 日（日）です。

<https://forms.gle/ZvY6h9eeDnqMrQHRA>

13. 具体的な相談内容の応募方法

本セミナーでは、参加者の方の具体的なウェブ調査の計画や、検討事項について、講師の三浦麻子先生にカウンセリングしていただける時間を多くとる予定です。以下の(1)～(2)のいずれかの方法で、相談をお寄せください。貴重な機会ですので、ふるってご応募ください。

- (1) 参加申し込みフォーム内の自由回答欄に、できるだけ詳しく、相談内容を記載してください。
- (2) 具体的な調査の予定や研究計画がある方は、以下の要領で、数理社会学会研究事務局までお送りください。
 - ・ファイルの形式：A4 横書き 5 枚程度までを目安に。Word ファイルまたは PDF ファイル。
 - ・相談内容：調査の目的、対象、リサーチ・クエスチョン、仮説、指標、調査票案、悩んでいることなどを適宜ご記入ください。
 - ・基本情報：お名前、ご所属、e-mail アドレス、会員・会員非会員の別、一般・学生の別をお知らせください。

・送付先：jams.research@gmail.com（研究活動委員会事務局）

※応募者多数の場合は、数理社会学会会員を優先する可能性があります。ご了承ください。

● 第 70 回大会校企画シンポジウム「コロナ禍のなかの仕事と家族」のご案内

本来、慶應義塾大学での数理社会学会大会は、2020 年 3 月に開催予定でした。2021 年 3 月大会もコロナ・ウィルスによる制約のため、オンラインでの開催となります。2020 年から 21 年にかけて、COVID-19 Pandemic は世界中の多くの人々の社会生活に影響を及ぼしています。こうした状況から、未知の感染症の流行が社会にどのような影響を及ぼすのかについて、社会学の立場から検討する必要があるのではないかと考えました。私自身が、この問題を考える際の大きな参考点とするのは、2000 年代後半の経済危機と雇用への影響でした。そのとき、製造業で働く派遣労働者などの臨時雇用の労働者が失職し、社会問題として報じられていました。移民労働者をはじめ、非正規雇用をはじめとする一部の人々に景気変動のしわ寄せが集中し、経済的な不平等が顕著なものとなっていると感じました。このように、社会的、経済的な危機は、社会の中に埋め込まれている格差・不平等の状況を一層顕在化させます。2020 年以降の感染症の流行と社会との関わりを検討するときも、以下のような論点について社会学の立場から考察することは重要です。社会の中でのリスク（失業、所得減少などの経済的リスク）がどのように偏在し、どのような人が不利な状況に直面しがちなのか、特定の人だけがそのリスクを引き受けるのではなく、どのような形でリスク負担の平等化を実現することが可能なのか。

職業をめぐる様々な変化は、家族生活にも大きく波及することが予想できます。人との接触を削減するために、テレワークや在宅勤務がこの間、大きく推奨されています。在宅勤務が増加することで、家族生活にも何らかの影響があると考えられます。家族社会学で有名な近代家族論は、仕事と家族の境界線が明確になるなかで、性別役割分業が出現したと論じます。在宅勤務の進展は、現代社会の日常となっていた職場への通勤（空間的移動）を不要にし、家族と仕事との間の関係性に一定の変化をもたらしているかもしれません。

さらに感染症の流行は、通常医療にも大きな影響を及ぼしています。最近の報道では、感染症の流行により 2020 年から 21 年にかけての出生数が大きく減少することも報じられています。数理社会学会でおなじみの視点に、コールマン・ボート (Coleman boat) がありますが、コロナ禍での出生数の減少もそうしたミクロ・マクロ・リンクの観点から考えることもできます。未知の感染症の流行というマクロな社会状況のもとで、何組かのカップルはリスク回避という点から妊娠・出産を控えるという意思決定をします。このような「合理的」選択の集積の結果として、さらなる人口減少の進展というマクロな社会状況が出現します。出生行動の背後にある意思決定のメカニズムや行為の意味理解は、コロナ禍の仕事や家族を理解するうえで、とても有益です。

以上の問題意識にもとづいて、本シンポジウムでは、コロナ禍の中の仕事と家族をテーマに 4 名の登壇者にご報告いただきます。その後、討論者によるコメントの後、参加者のみなさまとのディスカッションを行います。このシンポジウムを通じて、未知の感染症の流行と社会との関わりについて、社会学の立場からどのようなアプローチが可能なのか、みなさまと一緒に探求する

機会となることを目指します。

オーガナイザー：竹ノ下弘久（慶應義塾大学）

司会：藤間公太（国立社会保障・人口問題研究所）・松田茂樹（中京大学）

登壇者とテーマ：

高橋康二（日本労働研究・研修機構）

「コロナ禍における雇用と仕事」

申在烈（青山学院大学）・竹ノ下弘久（慶應義塾大学）

「社会階層論から見るコロナ禍の中の労働」

西村純子（お茶の水女子大学）・裴智恵（桜美林大学）・藤間公太（国立社会保障・人口問題研究所）「コロナ禍と家事分担」

松田茂樹（中京大学）・佐々木尚之（大阪商業大学）・梁凌詩ナンシー（東洋大学）

「新型コロナ・ウィルスの感染拡大が夫婦の出生行動に与えた影響」

討論者：稻葉昭英（慶應義塾大学）・今井順（上智大学）

付記：このシンポジウムは、JSPS 科研費 18H00936、18H00931 の助成を受けています。